

## 11月12日(日) 新人戦一回戦 vs 翔陽

先週の暖かさから一転、冬を思わせるグレーの空の下、9:00koで行われた一戦。相手は合宿も合同で行い、手の内を知り尽くしているような翔陽高校。固さが出るか成果が出せるか、、、

開始早々の1分。相手に放り込まれたボールは混戦となり相手選手の前へ転がる。誰もが失点を覚悟したが、咄嗟に詰めた GK 笠原が片手一本でスーパーセーブ。事なきを得るが固さが出てしまう形。それでも DF ラインから組み立て自分たちの形を作る。しかしそれを割り切っている翔陽は、ブロックを形成してから強度の高い球際で守備陣形を崩さない。南平が打開の糸口をつかんだのは、大出・渡邊の連携と小林の個人技。PA 手前まで切り込みシュートを放つ。ただ効果的なショットとはいかない。前半は南平5本、翔陽7本のシュートを放つもスコアレスで折り返す。

HT 中に TR を入れ、3 人目のアクションやサイドとのかかわりを再確認し、ペースを握れるよう修正する。後半は相手陣内にボールを運ぶ時間が増えるも、距離感が悪く、攻撃したい前線と、安全に前進したい守備陣が間延びしてしまう。それでもミドルレーンでボールを前向きで受けられるようになると、アタッキングサードでのプレー時間が増える。すると、48 分、ショートカウンターから柴田が中央右サイドから左から走りこんだ藤村へスルーパス。GK との 1vs1 を冷静に沈め、先制に成功する。一気に流れをつかんだように思われたが、その再開のプレー。簡単に自陣にボールを運ばれると、相手の思い切ったミドルシュートにタイミングを外されたのか、誰もブロックすることができずゴール右隅に決まってしまう。ペースは依然南平。ただフィニッシュ手前のスキル精度が悪く、ゴールを脅かすまでにはならない。72 分、決めきらないところなのがサッカーだと思い知らされる。ゴールキックをつながずに蹴ったボールは相手にヘディングで返され、そのボールが繋がり DF ラインを破られ、抜け出した FW に逆転ゴールを許す。残り 10 分。前線にボールを集めたい南平であるが、効果的にボールを運べず守り切れず試合終了。悔しい逆転負けという結果で新人戦は終了した。

後半のシュートは南平 5 本、翔陽 2 本とゲームは動かせていただけに、ゴールシーンの 2 本が悔やまれる。次は春の総体予選。この冬をどういう冬にするか、個人の意識が試される。